



北海道農業・農村情報誌[コンファ]

confa

AUTUMN ISSUE 2016

VOL.47

農業と、話をしよう。

手をつなぐと、
明日がひろがる。

農へウエルカム!

NPOココ・カラ おいしい講習会

安平町

2016年10月発行

【企画・発行】北海道農政部農政調整グループ

TEL(代)011(231)4111・内線(27)126 【制作】(株) 番通北海道

ココロもカラダも幸せに。
「手づくり」を楽しむ教室です。

安平産のおいしさを伝えようと、町内の有志が集まって結成されたNPO法人「ココ・カラ」。その名前には、ココロもカラダも幸せな時間をつくりたい、ここ(安平)から届けたい、という思いが込められています。活動の中心である「おいしい講習会」は、春の山菜料理から冬の味噌づくりまで、季節にあわせた料理教室を実施。さらに、パンづくりやそば打ちなども定期的に開催しています。
「安平町はお米、野菜、酪農、畜産と、あらゆる食材がそろった町。このことを意外と地元の人知らないのです。大切な“食”を通して、町内、町外の人たちとつながりたい」と、肉牛農家であり、代表理事の内藤圭子さん。手づくりの温かさも伝わってくる、「おいしい講習会」へ出かけてみませんか。



教室を開催する「みずほ館」の裏には菜園があり、料理の材料を調達



ココ・カラが開発したおやつ「きなこころ」も販売中



パン・オ・ショコラをつくるパン教室には、親子を含めた12名が参加



代表理事の内藤圭子さん(右)と理事の赤坂喜美恵さん(左)

秋・冬のプログラム

お魚の講習会

11月

苫小牧漁協のお母さんたちが協力。貝のむき方や魚のおろし方も習います。

パーティ料理

12月

クリスマスに向けた楽しいメニュー。

漬物づくり

12月

大切な冬の保存食をマスター。

味噌づくり

1月~2月(毎週日曜日)

安平産の大豆と、安平産の手づくり麹で味噌を仕込みます。わが家に持ち帰り、発酵させて完成です。参加者みんなでつくるランチも好評の講習会です。

お申し込み・お問い合わせは

NPO法人ココ・カラ TEL 080-5830-7086

<http://ameblo.jp/npo-coco-kara/> facebook「ココ・カラ」

バックナンバーは「コンファ」で検索!

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsi/seisakug/confa.htm>

農業と、話をしよう。 2016
confa 秋
北海道農業・農村情報誌 [コンファ] VOL.47

「confa」はConsumer(消費者=道民)とFarmer(農業者)のConsensus(合意)を意図したタイトルです。「消費者と農業者がもっとふれあえるように」「都市と農村をつなぐ架け橋になりたい」という思いをこめていきます。



手をつなぐと、 明日がひろがる。

農業から生まれる実りは、みんなのもの。
だから、みんなで支えたい。
あなたの手が農業や農村に届くように。
その入り口になりたい、秋のコンファです。

若い世代を呼び戻したい 6農家が一致団結

オホーツクの内陸にある津別町。その市街地から津別峠へ向かうと広大な畑が見えてきます。てん菜、ばれいしょ、豆、そして、色とりどりの野菜。約242ヘクタール（札幌ドームの約40倍）の作付面積をもつ「希来里ファーム」です。

2012年設立の希来里ファームは、6戸の農家が集まった農業法人。複数農家による農業法人は一体化が難しく、道内でもまだ多くはありませんが、津別町には5社もあります。

「法人にすると労働時間や給料が明確になり、若い後継者が戻ってくる。この地区も高齢化が深刻だったので、地域を衰退させないために法人化を決意した」と、佐野成昭社長。

現在の社員は15名。朝7時に全員が事務所に集まり、その日の作業を確認して一緒に働きます。法人になって変わったことは、「それぞれの得意な作物で担当を分けたので、全体的に技術が上がった」と、プロ集団のメリットを話してくれました。

設立から5年目を迎え、経営も組織もようやく安定してきました。津別を「希望が来る里」に。会社名に込められた思いは少しずつ実を結んでいます。

もくじ

【特集】手をつなぐと、明日がひろがる。

2 北海道産の実りとカラフル野菜を「希望が来る里」から。
農業法人 希来里ファーム [津別町]

5 サツマイモ×アップルパイ 幸せな出会い
香西農園 [滝川市] & ほんだ菓子司 [砂川市]

7 「おいしい」を「売れる」へ。私たちがサポートします。
北海道とさんごプラザ [札幌市]

8 ふるさとの、たからもの。「千軒そばの花観賞会」 [福島町]

9 ふれあいファームへいこう！

11 コンファ農業教室

13 キラリ！農業高校

14 北海道からのお知らせ

15 農へウェルカム！



#confa2016

Instagramで#confa2016を検索すると今号で取材した方たちが登場。北海道の農業・農村の様子をリアルタイムに見ることができます。

北海道産の実りとカラフル野菜を「希望が来る里」から。

農業法人 きらり 希来里ファーム [津別町]

希来里ファームの広大な大豆畑で働く、従業員と実習生のみなさん

300種類のカラフル野菜 農家の息子が営業マン

畑作が盛んな津別町において、ほかの法人にはない希来里ファームの特徴が、若手中心の野菜部門「どりーむふぁーむプロジェクト」の存在です。そのリーダーが野宮弘樹さんです。

「農家を継ぐことも考えましたが、一度外で働いてこいと親が言うので、魚介類を卸す会社に就職しました。ホテルやレストランの担当になって出入りしているうちに、魚と一緒に野菜も持ってきてほしいと言われて。じゃあ、実家で野菜を作れば安心だし、鮮度もいいしと、野宮農園に頼んだわけです。」

栽培する野菜は、市場にはない珍しいもの、料理に映えるカラフルなもの、チヨイス。その野菜が料理人たちに喜ばれ、野菜の種類や作付面積がどんどん増えていくことに。「お客さんのオーダーに際えるこの仕事が面白くなり、そろそろ魚はやめて野菜一本に絞りたいと思っています。」

そんな忙しい毎日の中、野宮さんが5年前から続けているのが「隣の野菜市」。毎週日曜、カラフル野菜をトラックに積み、北見市内と阿寒湖畔へ移動販売に出かけます。

「以前は、珍しい野菜はなかなか手に取ってもらえなかったのですが、宣伝も兼ねて行っていました。いまは楽しみにしてくれるお客さんが多くてやめられない感じです」と笑います。

農業をやりたい人が働きたい会社になろう

「どりーむふぁーむプロジェクト」の今後の課題は、野菜の加



ズッキーニの種類も豊富



カラフル野菜は注文に応じて手作業で収穫



料理人が使いやすいように下処理をする



ばれいしょの収穫作業



とれたてのカラフル野菜を出荷



希来里ファームの佐野成昭社長(右)と野菜部門リーダーの野宮弘樹さん(左)

工です。一年を通して野菜を提携できるよう、下処理と冷凍ができる加工場を町内に設けました。このプロジェクトはまだまだ広げられます。そのためにも同じ意識で仕事ができる人材を

確保したいと野宮さん。いま法人化が注目されているのは、「農業法人への就職」という選択ができることです。実際、希来里ファームにも「農業をやりたい」と神奈川県から移住し、就職した社員の方がいるそうです。農業系の学校からの実習生受け入れも始め、若い人たちが就職したいと思う会社になれば、地域農業の継続につながる」と、佐野社長は期待を込めます。

農業のプロたちが作った新しい会社は、これからのように伸びていくのか。全国に届けられるカラフル野菜とともに注目です。

CONFA MEMO 農業法人とは？

会社などの形で農業を営むこと。農業法人となることで、さまざまなビジネスの可能性が広がります。また、事業拡大から新たな雇用が生まれ、意欲のある人材を農業へ呼び込むことが期待されます。

た」という時に、希来里ファームに実家の野宮農園も加わり、野菜部門を任せられることになったのです。

現在の顧客は、全国のホテルやレストラン約1000件。毎日届く注文に合わせ、畑を回って野菜を収穫し、その日のうちに発送します。最近では、「野宮さんのおすすめ野菜」と任されるケースが多いそうです。

栽培している300種類の野菜は、毎年100種類ほどを入れ替え、その種もすべて野宮さんが手配。「最初の作付は熟練者にお願いますが、収穫はお客さんの好みもあるので僕たちがやります。」

CONFA COLUMN

日本の食卓を支える北海道農業

平成27年3月に、新しい食料自給率目標が決まりました。平成37年までに、カロリーベースは39%から45%までのアップが目標です。日本の食料自給率の低さが問題になってから、「国産を食べよう」という声は高まっていますが、なかなか1%もアップできません。でも、輸入に頼っている食卓はとても危ういものです。北海道の食料自給率(カロリーベース)は208%。日本の食卓のために、北海道農業の役割はますます重要になっていきます。

食料自給率アップのためにできること

- 旬の食べものを選ぶ
- 地元の食材を使う
- 食べ残しを減らす
- ごはんを中心に野菜を使ったバランスのよい食事を作る
- 自給率アップの取組みに参加する

2016年春号へのお便りから

いいよのない清浄さを感じさせてくれる北海道の風景が大好きです。この風景を支えるのが一次産業です。私達の食を支え、風景を守る皆様に感謝しています。(男性・61歳 その他)

CONFA VOICE 読者の声

CONFA VOICE 編集部から

農業・農村へのご理解ありがとうございます。農村の風景は、地域の皆様を含めた様々な方々によって次世代に引き継がれるよう保全されています。